

NPO法人ウヨロ環境トラストの紹介

団体の概要

ウヨロ環境トラストは、北海道の南西部胆振管内に位置する白老町のウヨロ川中流部をフィールドに活動を行っている NPO 法人です。主な事業は、土地を所有したり保全協定を結んで里山の自然を残すナショナルトラスト活動、その保全地の森林の手入れ、川沿いのフットパス（自然歩道）づくり、子どもの自然体験活動などの実践的な環境ボランティア活動です。

2001年に白老町民や近郊の苫小牧市民の参加を得て団体が設立され、2004年に法人化されました。これまでの森づくり活動の取り組みなどを中心に、団体の活動を紹介します。

ウヨロ川中流部の紹介

ウヨロ川は胆振管内最高峰のホロホロ山山麓を水源とし太平洋に注ぐ、水質良好な延長 18.8km の二級河川です。ウヨロ川の下流から中流では秋にはサケが遡上し自然産卵する姿が見られ、その周辺には里地・里山の田園景観がまとまって残されています。

こんな牧歌的な地域ですが、設立当時は周辺のカラマツ林は植栽後約 40 年も手入れがされずツルが繁茂し、植えた木の一部は枯れた荒廃状態の放置人工林でした。さらに 2004 年の台風 18 号では倒木が発生し、そのまま放置されている箇所もあります。

活動の開始

このため、ウヨロ環境トラストは里山の田園景観の保全と人工林の再生を目的に、設立当初から森づくり活動に取り組んできました。

団体設立時に取得した、当時約 40 年生のカラマツ林 2.2ha は「トラストの森」と名づけられ、ウヨロ川周辺の里山保全の拠点として、また人と自然との交流の場として管理されています。この森の間伐材を活用して山小屋や大型東屋などが整備されており、これらは交流施設として年間を通して利用されています。

また、それまで手入れがされていなかった周辺のカラマツ人工林などの所有者に働きかけて了解をいただき間伐などの森林整備を行い、現在は約 10ha の土地を保全協定地としてトラストの森と一体的に管理しています。

森づくり活動のほかに、設立 2 年目にウヨロ川周辺の自然にふれる機会として、自然ウォーキングや子どもの自然体験活動が始められました。その活動の中からウヨロ川のフットパス構想が会員から提案され、河川管理者の北海道庁の了承を得て、川沿いのフットパス（自然歩道）を 2003 年から整備しています。毎年秋ウヨロ川中流には、多くのサケが海から戻ってきます。近年は 10 月から 11 月にかけてサケの遡上を見学するツアーが実施されており、ウヨロ川フットパスはサケの遡上が見近に見ることができるエコツアーの場所として、年々知名度を上げています。

子どもの自然体験活動は、夏の宿泊キャンプ、秋と冬のデイキャンプなどで、活動の内容は森の自然観察、森づくり体験など里山の自然に触れるプログラムのほか、ウヨロ川の自然観察、川遊びなど周辺の自然を活用したものになっており、現在も毎年実施されています。

森づくり活動

トラストの森と保全協定地の森林整備は環境ボランティア活動として実施され、法人化後は新たに森づくり活動として独立させましたが、森づくりの担い手としては会員のほか、地域や都市

の住民に呼びかけボランティアを募集して除間伐、枝打ち、植樹などの活動を実施してきました。

その成果は、都市住民も参加できる森づくりプログラムとしてパンフレットの形でまとめ、2006年から一般市民に呼びかけた森林ボランティア活動を年数回実施しております。

市民による里山の森林再生を持続可能な活動としていくためには、会員のみならず、広く一般の森林ボランティアの参加を得て継続化させる必要があります。

このための取り組みとしては、森林ボランティアの層の拡大を図るほか、ボランティアの技術レベルのアップが必要であります。中径木の間伐はチェーンソーを使用するため、伐採技術の取得が欠かせないことから、2007年には間伐技術の習得を目指す「森づくり実践講座」や「チェーンソー操作講習会」の開催にも取り組みました。この成果は、トラストの中に森林作業班が誕生し、本格的な間伐作業が始まることとなりました。

また、2005年10月から2年間、北海道大学や道立林業試験場、白老町役場と、「森林の機能評価と協働による森づくりに関する共同研究」プロジェクトに参加しております。トラストの森を研究フィールドとして提供するほか、地域でのワークショップに当会の会員も参加して、市民参加の森づくりを研究者と一緒に考えてきました。

2007年当会が開設した子ども向けデジタル教材「北の里山事典」のWEBでは、共同研究の成果のGISデータを活用したウヨロ川周辺の里山の3D動画が、インターネットで公開されております。[\(http://www.shiraoi.jp/satoyamaziten/\)](http://www.shiraoi.jp/satoyamaziten/)

本格的な間伐作業

2007年に行った森づくり実践講座やチェーンソー操作講習会に前後して、林野庁が新規施策として始めた未整備森林緊急公的整備モデル事業に、会員からなる森林作業班を編成して取り組み始めました。この事業は、白老町内の放置された人工林を拾い出し、所有者を調べて連絡をとり、同意を得られた人工林の間伐を行うものです。森林整備に至るまでには、所有者調査からはじまり、主に町外の所有者と交渉し、協定書を締結するという大変手間のかかる作業が必要でした。今回まとめた「放置人工林森林整備マニュアル」は、これまでの取り組みのノウハウを多くの団体に広めたいとの思いで作成したものです。

未整備森林整備事業は2007年度から2008年度の2年間実施され、その整備面積は約15haとなりました。また2009年度からは、北海道のNPO法人としては初めて森林施業計画の認定を受けて森林施業長期受託事業を開始し、これまで広葉樹林の改良や人工林の間伐を3.5ha実施しております。

また、これらの間伐作業から発生する間伐材を地域で利用できるように、輸入材が大半を占めているログハウスに着目して、ログハウス用として間伐材を活用するためのログハウス製作研修会を、2010年3月から継続して開催しています。研修の成果として、間もなく1棟のログハウスがトラストの森に誕生します。



ウヨロ川



カラマツの放置人工林



トラストの森とウヨロ小屋



森づくり活動(枝打ち)



ウヨロ川フットパス



夏のキャンプ

<連絡先>

NPO法人ウヨロ環境トラスト

住所 〒053-0018 北海道苫小牧市旭町 4-3-14 齊藤司法書士事務所気付
 TEL 0144-36-5753
 FAX 0144-32-6747
 E-mail trust@shiraoi.org
 URL <http://www.shiraoi.org/trust/>

「ウヨロの森」森づくりプログラム WEB
 ウヨロ川フットパス WEB
 北の里山事典 WEB
 ウヨロ川サケウォッチング・ガイド WEB

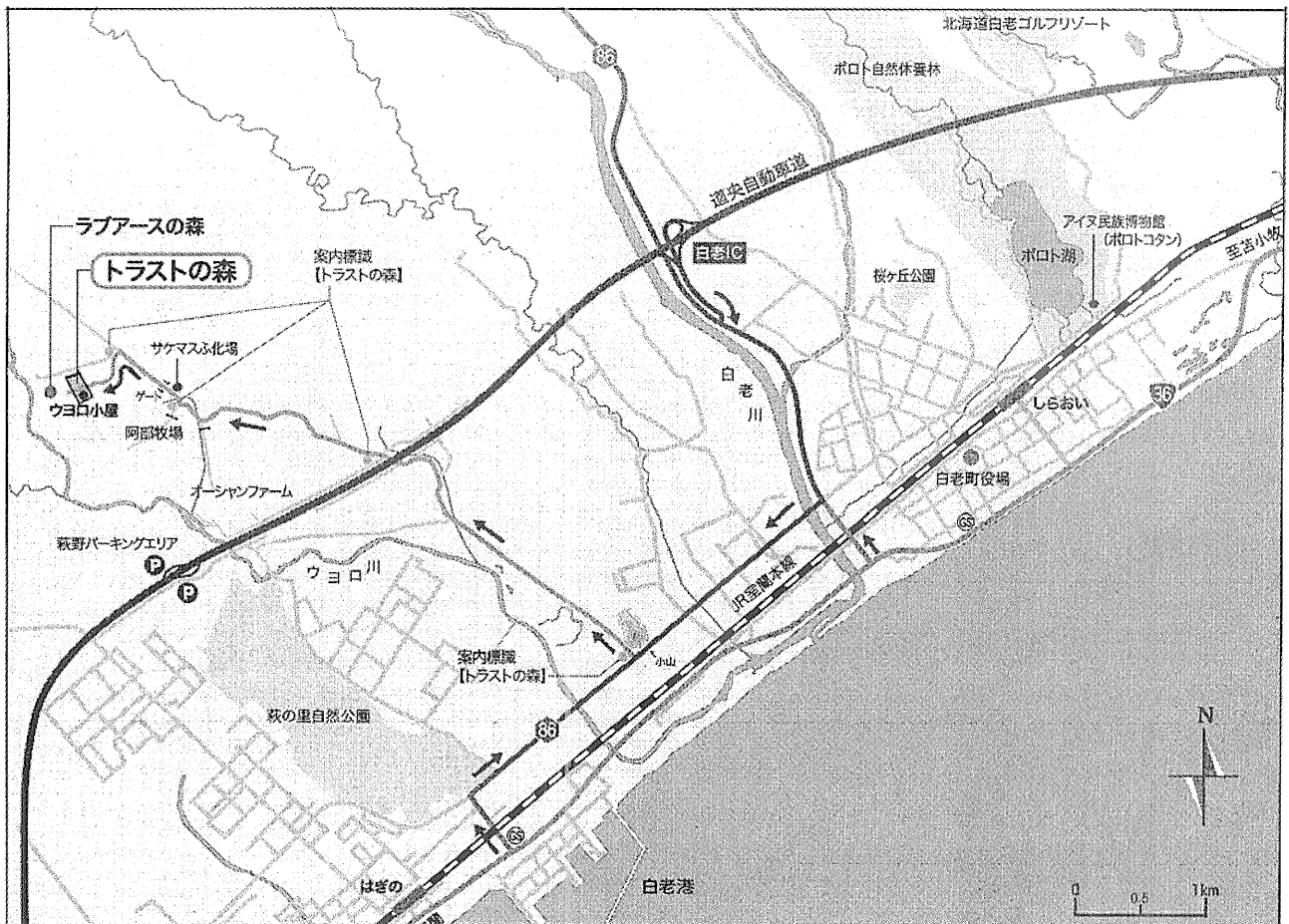
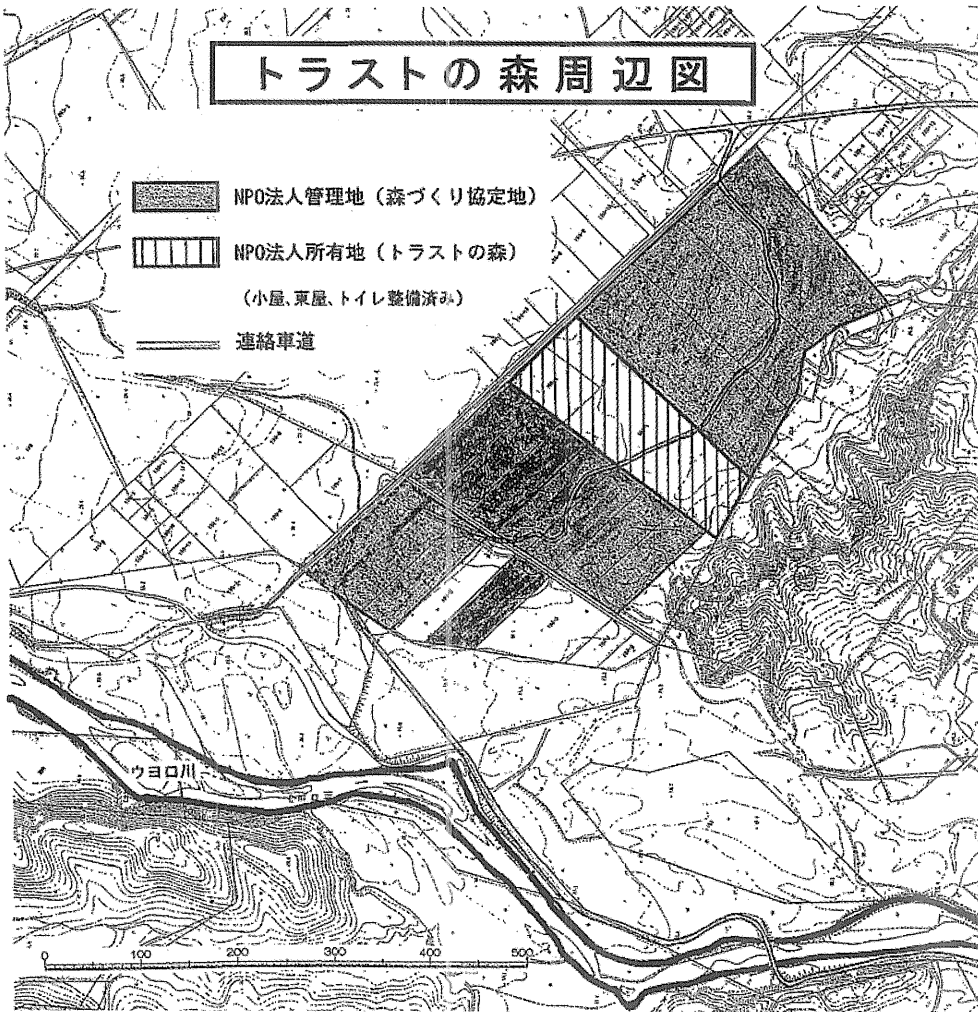


白老町

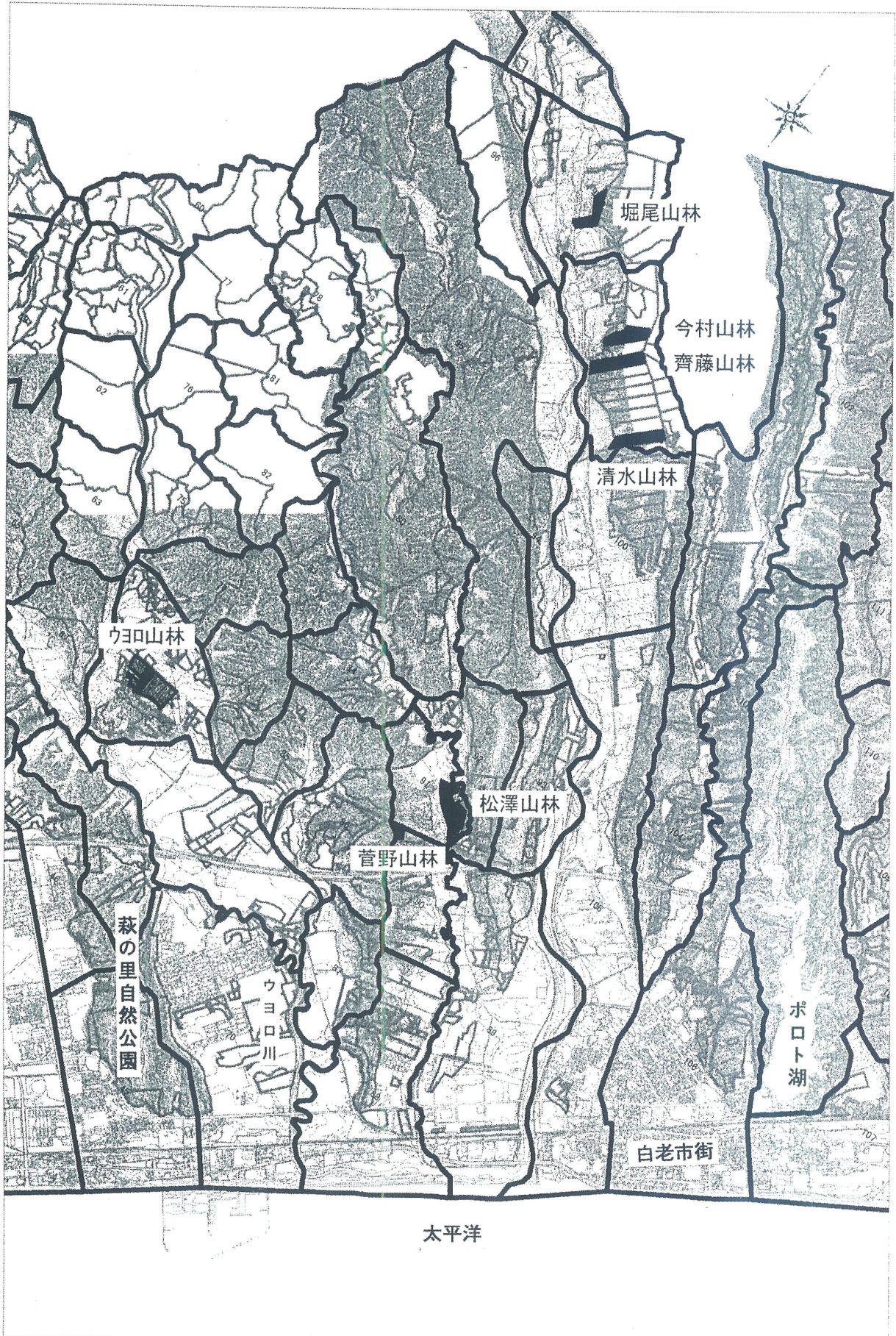
白老町位置図

次のWEBも見られます
 ウヨロ川周辺の市民参加の森づくりを紹介
 ウヨロ川沿いの手づくりの自然歩道フットパスを紹介
 ウヨロ川周辺の里山の自然を紹介するデジタル教材
 道央圏屈指のサケ自然産卵が見られる見所などを紹介

トラストの森周辺図



森林施業長期受託事業位置図



1 / 50000

NPO法人ウヨロ環境トラストの歩み

2001年

10月

・有志による資金拠出により、ナショナルトラスト活動の拠点となる自然環境保全地としてカラマツ林（トラストの森）2.2haを取得。

11月30日

・設立総会を開催（会員15名で設立）。

12月

・トラストの森除間伐等の手入れ作業を、環境ボランティア活動として会員により始める。

2002年

4月

・トラストの森のカラマツ間伐木を利用したウヨロ小屋を建設する。（他の施設整備 2003年8月間伐木利用の東屋を建設 2006年5月ツリーハウス（樹間テラス））

6月

・現在のフットパス（自然歩道）の一部を歩き、フットパス整備構想を現地で検討。フットパスの整備を開始（ササ刈り、草刈り等）する。

2003年

2月

・トラストの森隣接地のカラマツ林2.3haの所有者から使用承諾を得て保全協定地として除間伐作業を開始。（現在、保全協定地はウヨロ川、ブーベツ川流域等に約40ha）

7月

・子どもの自然体験行事として、夏のエコキャンプを開催する。白老町、苫小牧、札幌から28人の小中学生が参加する。（2011年まで毎年実施、子どもゆめ基金事業）

11月

・「第9回森林と市民を結ぶ全国の集い」（札幌市開催）の分科会でトラストの活動を紹介。集い終了後の1泊2日のエクスカージョンの実施地として、ウヨロ川フットパスを歩くプログラムが実施される。（全国から21名参加）

・「第2回全道フットパスの集い」が白老で開催され、2日目の行事としてフットパス・ウォーキングが実施される。（全道から24名参加）

2004年

10月25日

・北海道の認証を受け、NPO法人として登記。

2005年

10月

・北海道大学、北海道立林業試験場、白老町等と

共同してニッセイ財団助成の研究に着手する。（研究課題：北海道の「森林機能評価基準」を活用した地域住民・NPO・行政機関・研究者の協働による森林管理体系の形成）

2006年

3月

・ウヨロ川フットパス・マップを5,000部作成する。ウヨロ川やフットパス周辺と当会の活動を紹介する。（林野庁新規助成事業の森業・山業創出支援総合対策事業）

4月

・北海道大学等との共同研究の現地検討会が2日間白老で開催され、トラストの森の現地確認等が行われる。

・文部科学省所管子どもゆめ基金教材開発助成事業として、「北の里山自然事典」が採択され、デジタル教材づくりに着手する。（2007年4月公開）

9月

・林野庁の新規事業「山村力」（やまちから）誘発モデル事業として、「都市住民を対象とした里山保全ボランティア体験事業」が採択され、大型東屋（ウヨロ・ドーム）の整備や里山保全ボランティア体験会の実施事業に着手する。（2007年3月ウヨロ・ドームが完成）

10月

・NPO法人北海道市民環境ネットワークと共同して、砂利採取跡地に植林を行う森林再生事業の「ラブアースの森」づくりを開始する。（2010年まで毎年実施）

12月

・財団法人秋山記念生命科学振興財団の助成を受け実施した里山の自然環境調査の成果を、「ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書」として発行する。また、インターネットでも公開する。

(<http://www.shiraoi.org/shizen/>)

（絶滅の恐れのある種として、植物2種、昆虫類2種、底生動物2種、魚類5種、鳥類4種の計15種の生息を確認）

2007年

3月

・北海道大学の研究者等の参画を得て、これまでの実績をもとに広く森づくり活動への参加を呼びかけるパンフレットとして「ウヨロの森・森づくりプログラム」を発行する。（社団法人国土緑化推進機構新規助成事業のNPO等創造的「森林づくり企画」アクションプラン）

8月

・国連大学サマーセミナーのフィールドワークをトラストの森で受入れ。（JICA 主管の森林研修も

同年秋に受入れ)

11月

・森林ボランティアの層の拡大とボランティアの技術レベルのアップを目的に、チェーンソーを使用する間伐技術の習得を目指す「森づくり実践講座」を実施。

・森林作業班を当会の中に発足させ、森林管理の施業レベルに達する本格的な除間伐事業を継続的に実施することとし、国の補助を受けて行う未整備森林緊急公的整備モデル事業に着手する。(事業実績 2007年度 3.86ha、2008年度 10.86ha)

・農山村と都市との連携、交流等により森林整備を行い、都市住民や青少年等のふれあいの場となる森林づくりに全国的なレベルで顕著な実績をあげているとして、社団法人国土緑化推進機構主催の「ふれあいの森林づくり」中央表彰の受賞団体となる。

12月

・北海道大学、北海道立林業試験場、白老町等との共同研究の成果を発表する第22回ニッセイ財団助成研究ワークショップが札幌市で開催され、ウヨロ川の自然環境やNPO法人ウヨロ環境トラストの活動を紹介する。

2008年

9月

・緑の募金事業・特定公募事業として、「放置人工林等再生のための間伐推進と森林ボランティア育成事業」が採択され、林内作業車の導入や間伐ボランティア体験会開催に着手。(2009年も継続して実施)

2009年

3月

・北海道大学、北海道立林業試験場、白老町等との共同研究の成果として、「森林のはたらきを評価するー市民による森づくりに向けてー」が北海道大学出版会から発行され、ウヨロ川流域における森のはたらきやNPO法人ウヨロ環境トラストの活動も紹介される。

4月

・北海道のNPO法人としては初めて、森林施業計画の認定を受けて5年間の森林施業長期受託事業を開始する。(事業実績 2009年度 広葉樹改良事業 2.56ha、2010年度 間伐事業 0.92ha)

10月

・NPO法人設立5周年記念事業として、環境ボランティア体験交流会を開催する。(全道から58名参加)

2010年

3月

・緑の募金事業・特定公募事業として、ログハウス製作研修会を5月までに6回実施する。(研修会終了後に有志によるログビルダークラブが設立され、引き続きログハウスづくりを継続する。)

5月

・日本財団等の助成により、ウヨロ川における野生サケ保全のための調査を2009年10~12月実施して、その成果を活用したサケウォッチング・ガイドのパンフレットを発行し、インターネットでも公開する。(http://www.shiraoi.org/trust/salmon/)

これらの資料がきっかけとなり、この秋の10月から大手旅行業者が行う本州方面の北海道ツアーの一部として、ウヨロ川のサケ遡上見学が取り入れられる。(2011年秋もツアー継続の見込み)

10月

・緑の募金事業・直接事業として、森林ボランティア指導者養成「育林技術研修会」が採択され、森林ボランティア活動に関係する者を対象に、科学的な知識と現場経験を兼ね備えた専門家の指導による実践的な育林技術研修会に着手。森林ボランティアの体系的な技術向上と森林ボランティアの中核となる指導者の育成を目指す。(2011年8月まで毎月1回実施)

・また、緑の募金事業・創造的公募事業として、「NPOによる放置人工林の整備促進とその木材の地産地消を図るモデル構築実証事業」が採択される。森林所有者を調査して働きかけ、実際の森林整備につなげる方法などをまとめようと放置人工林森林整備マニュアルの作成に着手する。また、間伐材を活用した第2期のログハウス製作研修会を開始する。(2011年8月まで毎月1回実施)

2011年

3月

・社団法人日本ユネスコ協会連盟がすすめる、未来の子ども達に長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための未来遺産運動のプロジェクトとして、「野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト」が、「プロジェクト未来遺産」に登録される。

8月

・緑の募金事業・創造的公募事業で検討委員会を設置して検討をすすめてきた「放置人工林森林整備マニュアル」の編集が完成し、発行する。